

# 世界のフィルム・アーカイブは「世界視聴覚遺産の日」をどう祝っているか？

A World Survey: How the world's film archives have been celebrating the World Day for Audiovisual Heritage?

連載:

## フィルム・アーカイブの諸問題 第75回

10月27日は、映画・映像を保存するアーキビストたちにとって大きな意味を持つ「世界視聴覚遺産の日」である。2006年、ユネスコに属する視聴覚保存機関連絡協議会(CCAAA)が、映画フィルム、テレビ番組、様々な録音・録画遺産を保存し安全保護する事業や活動を推進し、その重要性を啓蒙すべく、1980年の「動的映像の保護及び保存に関するユネスコ勧告」採択日であるこの日を、国際記念日に定めたのである。

これを受けて、2007年から本格的に世界で実施されるようになったが、フィルムセンターが加盟する国際フィルム・アーカイブ連盟(FIAF)でも、連盟をあげてこの日を祝うことを決定し、2006年以来様々な特別イベントが開催されてきた。フィルムセンターでは、2008年から「世界視聴覚遺産の日」を記念する特別イベントの開催を定例化することとし、同年にその第一回として「失われた無声映画再現公演企画 甦る『新版大岡政談』」、2009年に第二回として「特別上映会『幸福』シルバー・カラーの復元」、そして今年、第三回として「講演と上映 3D映画の歴史」を開催した。

ここでは、FIAFのホームページに一部掲載されている、過去4年間(2006年～2009年)に各加盟機関が行った記念事業を、抜粋して紹介する。こうした一覧から、世界のフィルム・アーカイブが映画・映像保存の重要性を広く伝えてゆくために、各機関がどのような工夫を行っているかを窺うことができるだろう。

### 2006年

#### [タイ、バンコク]

タイ国立フィルム・アーカイブ  
(NATIONAL FILM ARCHIVE OF THAILAND)

世界視聴覚遺産の日について説明する展示や、視聴覚遺産の保存に伴う問題についてのパネル・ディスカッションを開催。

#### [ドイツ、ベルリン]

ドイチェ・キネマテーク=ベルリン映画博物館  
(DEUTSCHES KINEMATHEK – MUSEUM FÜR FILM UND FERNSEHEN)

入館料無料で開館。一般向け館内見学ツアーを実施し、またフィルム部門が行う業務のデモンストラーションを行った。

#### [ドイツ、フランクフルト=ヴィースバーデン]

ドイチェ・フィルムインスティテュート  
(DEUTSCHES FILMSTUDIUM)

ヴィースバーデンの劇場「カリガリ」で、新たに復元したロッセ・ライニガーの『アクメッド王子の冒険』(1926年)を、ドイツの著名なジャズピアニストであるウーヴェ・オバークによる伴奏つきでプレミア上映。

#### [ハンガリー、ブダペスト]

ハンガリー国立フィルム・アーカイブ  
(HUNGARIAN NATIONAL FILM ARCHIVE)

復元した50年代ハンガリーのヒット作品ÁLLAMI ÁRUHÁZ(1952年)を上映。

#### [オーストラリア、キャンベラ]

国立フィルム&サウンド・アーカイブ  
(NATIONAL FILM AND SOUND ARCHIVE)

新たに復元したオーストラリアの長篇映画THE STORY OF THE KELLY GANG(1906年)をプレミア上映。

#### [カナダ、モントリオール]

シネマテーク・ケベコワーズ  
(CINÉMATHEQUE QUÉBÉCOISE)

世界視聴覚遺産の日とカナダ・オーディオヴィジュアル・トラスト10周年を合わせて祝う。グリゴリー・コージツェフの『新バビロン』(1929年)を、ガブリエル・ティボドーのピアノ伴奏つきで上映。

#### [フランス、パリ]

国立映画センター/映画アーカイブ部門  
(ARCHIVES FRANÇAISES DU FILM – CENTRE NATIONAL DE LA CINÉMATOGRAPHIE)

『海岸』(1954年、アルベルト・ラットウアーダ監督)

を上映。映画アーカイブ部門の新しいウェブサイトや、フランス国立図書館に設置された同アーカイブ所蔵フィルムの閲覧スペースについて紹介した。

#### 大学シネマテーク

(CINÉMATHEQUE UNIVERSITAIRE)

『国民の創生』(1915年、D・W・グリフィス監督)を上映。上映前には、1995年に映画生誕100年を記念してフランス国立映画センターが制作した「フィルムをどうやって救うか」を上映。

#### [チェコ、プラハ]

国立フィルム・アーカイブ  
(NÁRODNÍ FILMOVÝ ARCHIV / NATIONAL FILM ARCHIVE)

国立フィルム・アーカイブの劇場「ボンレポ」で、復元作品 *CIKÁNI*(1921年、Karel Anton監督)に加え、短篇無声映画 *ZOFÍNSKÁ PLOVÁRNA*(1898年、Jan Krizenecký監督)、ドキュメンタリー映画 *LA RIVIÈRE FRANÇAISE*(1920年代)を上映。また、チェコ・ラジオ(CZECH RADIO/CESKÝ ROZHLAS – VLATAVA)では、世界視聴覚遺産の日、およびフィルムの復元や保存などに関する番組が放送された。

#### [チリ、サンティアゴ]

チリ国立シネマテーク  
(CINETECA NACIONAL DE CHILE)

特別上映会を開催。上映作品は、映画作家であり、サンティアゴ・カトリック大学の映画研究所の創設者でもあるラファエル・サンチェスが作った *EL CUERPO Y LA SANGRE*(1962年)、『戦艦ポチョムキン』(1925年、S・エイゼンシュテイン監督)、『メトロポリス』(1927年、フリッツ・ラング監督)。なお『戦艦ポチョムキン』の上映には、エドムント・マイゼルの音楽を伴奏に使用。

#### [ボスニア・ヘルツェゴヴィナ、サラエボ]

キノテカ・ボスニア・ヘルツェゴヴィナ  
(JAVNA USTANOVA KINOTEKA BOSNE I HERCEGOVINE)

『メトロポリス』を上映。

#### [マケドニア、スコピエ]

マケドニア・シネマテーク  
(KINOTEKA NA MAKEDONIJA)

1996年にユネスコの支援により保存を実現させたマナキ兄弟の作品とともに、マケドニアの映画遺産を上映。

#### [ブルガリア、ソフィア]

ブルガリア国立フィルム・アーカイブ  
(BULGARSKA NACIONALNA FILMOTOKA)

ブルガリアの映画人たちを招いてのトーク・イベントを伴う特別上映、講演会を3部構成で行う。第1部

では、1920年代後半および1950年代半ばに製作された短篇のドキュメンタリー作品やアニメーション映画を上映。第2部では、所蔵作品の中からDVD化された1940年代の映画を上映。第3部では所蔵作品を紹介するプログラム「映画の大学」の新学期の第1回として『ジャズ・シンガー』（1927年、アラン・クロスランド監督）を上映。

## 2007年

### 【ギリシャ、アテネ】

ギリシャ・フィルム・アーカイブ  
(TAINIOTHIKI TIS ELLADOS)

復元されたギリシャ映画 *MATOMENA CHRISTOUGENNA-BLOODY CHRISTMAS* (1951年、Yiergos Zervos監督) の上映と、世界映画文化遺産やフィルム保存・復元に関するパネル・ディスカッションを実施。

### 【ドイツ、ベルリン】

ドイツ連邦アーカイブ／フィルムアルヒーフ  
(BUNDESARCHIV-FILMARCHIV)

3部構成のイベントを実施。第1部では、1919年以降のドイツにおける自主映画コレクションの歴史について、映画の散逸と保存、そして保護されたフィルム素材の例について講演会を行った。第2部では、ドイツ写真・映画局 (BUFA) 製作のフィルム保存に関する講演会を行い、オンライン検索エンジン“Der erste Weltkrieg 1914–1918 in Filmdokumenten”を紹介。第3部では、オンライン・ビクチャー・ギャラリー“Verlorene schätze” (失われた宝) を紹介。

ドイツ・キネマテーク＝ベルリン映画博物館  
(DEUTSCHES KINEMATHEK – MUSEUM FÜR FILM UND FERNSEHEN)

4部構成のイベントを実施。第1部では、「映画資料にみる第一次世界大戦 (1914–1918年)」と題して、ドイツ写真・映画局 (BUFA) の資料を紹介する講演を実施。第2部では、「テレビジョン・ハイライツ」と題して、ドイツのテレビ局アーカイブによる活動内容の紹介と、ペーター・ネストラの生誕70周年を記念して監督のテレビ作品を上映。第3部では、同じくネストラ監督によるストロブ＝ユイレについてのドキュメンタリー作品 *DIE VERTEIDIGUNG DER ZEIT* (2007年) を上映。映画史家ヨルク・ベッカー、映画監督カルロス・ブスタマンテとペーター・ネストラ、ツォカ・ネストラによるパネル・ディスカッションを実施。第4部では、新たに復元したフリッツ・ラングの『蜘蛛』第1部「黄金の湖」、第2部「ダイヤの船」を上映。前FIAPF会長エヴァ・オルヴァンツにより作品が紹介され、上映はユルゲン・クルツの伴奏つきで行われた。

### 【フランス、パリ】

国立映画センター／映画アーカイブ部門  
(ARCHIVES FRANÇAISES DU FILM – CENTRE NATIONAL DE LA CINÉMATOGRAPHIE)

知られざる19世紀末から20世紀初頭のアニメーション映画を紹介。上映作品は、エミール・レイノーの『脱衣小屋の周りで』(1895年)、セグンド・デ・チ

ヨモンの『現代彫刻家』(1908年)、エミール・コールの『隣の間借人たち』(1909年)、マリウス・オガロプとジャン・コマンドンの *LE TAUDIS DOIT ÊTRE VAINCU* (1912年)、ロベール・ロルタックの *CITRÔEN AUTOMOBILES : MONSIEUR LEDOUX N'AMIE PAS LES SCÈNES DE ROBERT LORTAC* (1920年)、アルベール・ムルランの *LA RÉVOLTE DES BETTERAVES* (1923年)、アンソニー・グロスとヘクター・ホッピンの *LA JOIE DE VIVRE* (1934年)、アルベール・ドゥブーの *ANATOLE FAIT DU CAMPING* (1947年)、ポール・グリモアの『小さな兵隊』(1948年)。

### 【ドイツ、デュッセルドルフ】

デュッセルドルフ映画博物館  
(FILMMUSEUM DUSSELDORF)

児童向けプログラム「ミッキー・マウスからフィルムのリールまで」、館内ツアー「舞台裏へ」、講演「スーパー8の力」、講演『「真昼の決闘」の復元」、ティーパーティーを実施。

### 【ドイツ、フランクフルト】

ドイツ・フィルムインスティテュート  
(DEUTSCHES FILMINSTITUT / DEUTSCHES FILMMUSEUM)

もはや完全版が残存しないバウル・ヴェゲナーの *HANS TRUTZ IM SCHLARAFFENLAND* (1917年) を、紙媒体の関連資料や同時代の批評、そしてスチル写真とともに紹介し、映画史上の作品がなぜか多く失われてきたかについて語る講演会を実施。

### 【フィンランド、ヘルシンキ】

フィンランド・フィルム・アーカイブ  
(SUOMEN ELOKUVA-ARKISTO / FINNISH FILM ARCHIVE)

『街の灯』(1931年、チャールズ・チャップリン監督) を、フィンランド・ラジオ交響楽団 (カール・デイヴィス指揮) によるオリジナル音楽の伴奏つきで上映。

### 【ナイジェリア、ジョス】

国立フィルム・ビデオ&サウンド・アーカイブ  
(NATIONAL FILM, VIDEO AND SOUND ARCHIVE)

館内を一般開放し、開会式とともに、ヴァンテージ・フィルム、ポスター、新聞記事、スチル写真、旧型の映画機械、雑誌の展示、映画の上映会を開催。

### 【ポルトガル、リスボン】

シネマテッカ・ポルトゲーザ  
(CINEMATECA PORTUGUESA – MUSEU DO CINEMA)

アーカイバルな保護・復元なしでは残存し得なかった映画の実例を紹介した。紹介した作品は、『影の軍隊』(1969年、ジャン＝ピエール・メルヴィル監督)、*MADAME DE THÈBES* (1915年、マウリッツ・スティルレル監督)、*OS LOBOS* (1924年、リノ・ルポ監督)、『ますらを』(1934年、フランク・ボゼーギ監督)、『恵みの映画の断片』(1973年、ジョアン・セーザル・モンテイロ監督)。

### 【スロヴェニア、ルブリャナ】

スロヴェニア・シネマテーク  
(SLOVENIAN CINEMATHEQUE)

スロヴェニア・フィルム・アーカイブの協力により、特

に貴重な作品を紹介。上映作品は、フランツェ・シュティグリッツ監督による *PASTIRCI* (1973年)、*NE JOCI, PETER* (1964年)、*TISTEGA LEPEGA DNE* (1962年)、『平和の谷』(1956年)、Boštjan Hladnik 監督の *PLES V DEZJU* (1961年) ほか短篇5本。

### 【アメリカ、ロサンゼルス】

カリフォルニア州立大学ロサンゼルス校フィルム&テレビ・アーカイブ  
(UCLA FILM & TELEVISION ARCHIVE)

1960～70年代の運動「L.A.レベリオン」から生まれた2本の代表的なアメリカ・インディペンデント映画 *MY BROTHER'S WEDDING* (1983年/2007年再編集、パシフィック・フィルム・アーカイブによる復元) と *KILLER OF SHEEP* (1977年、UCLAフィルム&テレビ・アーカイブによる復元) を上映するとともに、チャールズ・バーネットの新しい短篇映画 *QUIET AS KEEP* (2007年) を紹介。また、2本の長篇作品に携わったスタッフや俳優によるパネル・ディスカッションも行った。

### 【カナダ、モントリオール】

シネマテーク・ケベコワーズ  
(CINÉMATHEQUE QUÉBÉCOISE)

復元した『沈黙は金』(1946年、ルネ・クレール監督) 英語版の上映を含む講演をモントリオール大学と共同開催。ローザンヌ大学のアラン・ボワラ教授によって作品解説が行われた。

### 【チェコ、プラハ】

国立フィルム・アーカイブ  
(NÁRODNÍ FILMOVÝ ARCHIV)

復元されたチェコ映画 *ZÁHADNÝ PRÍPAD GALGINUV* (1923年、Václav Kubák監督) を上映。映写のデモンストレーションを行いながら国立フィルム・アーカイブの活動を紹介した。またチェコ公営テレビ局番組において世界視聴覚遺産の日に関するディスカッションが放映された。

### 【南アフリカ共和国、プロテリア】

南アフリカ国立フィルム・ビデオ&サウンド・アーカイブス  
(SOUTH AFRICAN NATIONAL FILM, VIDEO AND SOUND ARCHIVES)

招待した専門家たちによるユネスコ勧告に関連した研究発表会を実施。

### 【ボスニア・ヘルツェゴヴィナ、サラエボ】

キノテカ・ボスニア・ヘルツェゴヴィナ  
(JAVNA USTANOVA KINOTEKA BOSNE I HERCEGOVINE)

『戦艦ポチョムキン』を上映。

### 【シンガポール、シンガポール】

アジア・フィルム・アーカイブ  
(ASIAN FILM ARCHIVE)

アジア・フィルム・アーカイブのコレクションをライブラリー@エスプラナードで一般公開。また東南アジアのデジタル・シネマに関するシンポジウム、東南アジアの映画製作グループによるヴィジュアル・インスタレーションを行った。

## [ブルガリア、ソフィア]

ブルガリア国立フィルム・アーカイブ  
(BULGARSKA NACIONALNA FILMOTEKA)

イングマール・ベルイマン特集開催中、世界視聴覚遺産の日にちなんで同監督の代表作『野いちご』(1957年)を上映。また世界視聴覚遺産の日と世界アニメーションの日を記念してASIFA-Bulgaria、ソフィア・ポーランド文化学院、ソフィア・フランス学院との共催プログラムを開催。

## 2008年

## [スペイン、バルセロナ]

フィルモテカ・デ・カタルーニャ  
(FILMOTECA DE CATALUNYA)

3部構成のイベントを実施。第1部では、復元した*VERD MADUR*(1960年、カタルーニャ語版、シエガ・ベルデ&ラファエル・ヒル監督)を上映。第2部では、『ギーズ公の暗殺』(1908年、アンドレ・カルメット&シャルル・ル・バルジー監督)のオリジナル無声版(フランス国立フィルム・アーカイブによる復元版)とサウンド版の両ヴァージョンを紹介。第3部では、FIAFの奨励に従いアフリカに関する記録映画をベータカム素材で上映。

## [ドイツ、ベルリン]

ドイチェ・キネマテーク=ベルリン映画博物館  
(DEUTSCHES KINEMATHEK – MUSEUM FÜR FILM UND FERNSEHEN)

テレビ部門では、ドイツの番組局のテレビ・アーキビストたちを対象とする討論会を実施。会の終わりには、残存が確認できないフィルムについての情報を集積する「ロスト・フィルム」プロジェクトとそのウェブ・サイトについて、いくつかの事例とともに紹介した。

## [ドイツ、フランクフルト]

ドイチェ・フィルムインスティテュート  
(DEUTSCHES FILMINSTITUT / DEUTSCHES FILMMUSEUM)

世界視聴覚遺産の日と Aktionstag der kommunalen Kinos(「地元映画の日」の意)を兼ねて上映会を実施。ミハエル・アルテン(映画評論家)とハンス・ヘルムト・プリンツラー(ベルリンのドイチェ・キネマテーク前ディレクター)が手がけた、ドイツ映画の輝かしい軌跡をたどるドキュメンタリー作品 *AUGE IN AUGEN*(2007年)を上映。

## [アルゼンチン、ブエノスアイレス]

フンダシオン・シネマテカ・アルヘンティーナ  
(FUNDACIÓN CINEMATECA ARGENTINA)

フンダシオン・シネマテカ・アルヘンティーナ創立59周年記念も兼ねて、*EL ÚLTIMO MALÓN*(1917年、アルシデス・グレカ監督)を、サンティアゴ・チョソウリアンによる演奏とともに紹介する無料鑑賞会を実施。上映終了後には記念式典を行った。

## [オーストラリア、キャンベラ]

国立フィルム&サウンド・アーカイブ  
(NATIONAL FILM AND SOUND ARCHIVE)

20世紀初頭にコリック家がオーストラリア国内外で作った135本以上の作品を含むコリック・コレクションの保存に焦点を当てたイベントを実施。

## [ポルトガル、リスボン]

シネマテッカ・ポルトゲーザ  
(CINEMATECA PORTUGUESA – MUSEU DO CINEMA)

復元した『マイルストーンズ』(1975年、ロバート・クレイマー監督)を上映。

## [スロヴェニア、ルブリャナ]

スロヴェニア・フィルム・アーカイブ  
(SLOVENSKI FILMSKI ARHIV LJUBLJANA)

スロヴェニア・シネマテークの劇場で、ユーゴスラヴィア・シネマテーク(ベオグラード)から提供された素材を元に作ったニュープリントの『赤い小麦』(1970年、ジヴォジン・パウロヴィッチ監督)を上映。

## [ノルウェー、モイラナ]

ノルウェー国立図書館  
(NATIONAL LIBRARY OF NORWAY)

10月24日に国立図書館全職員に対して館所蔵の貴重な映像を紹介し、またクリスチャン・レーデン音声記録コレクションの保存に関する解説がなされた。また同サンプルは10月27日にウェブ上で公開された。公開したのは*AERIAL MAPPING OF SVALBARD 1938*で、Rudi Pedersenにより特別に作曲された音楽つきで映像を流した。

“THE MATERIALS LEFT BY MARTINIUS SKØIEN”と題するスチル写真をノルウェーの最初のグラモフォン・スターであるAdolf Østbyeの音楽に乗せて放映した。

## [フランス、パリ]

国立映画センター/映画アーカイブ部門  
(ARCHIVES FRANÇAISES DU FILM – CENTRE NATIONAL DE LA CINÉMATOGRAPHIE)

『ボンゴにおける女性の葬式』(1973年、ジャン・ルーシュ監督)、ジャン・ヴィゴ賞を受賞した『黒人女』(1966年、ウスマン・センベヌ監督)を上映。

## [エクアドル、キト]

エクアドル国立シネマテーク  
(CINEMATECA NACIONAL DEL ECUADOR)

エクアドルの映像と今日まで受け継がれてきた伝統的な音楽の祭典を開催。上映したのは、*LA PRIMERA FUNCIÓN DEL CINEMATÓGRAFO DE LOS HERMANOS LUMIÈRE*(1895年)、エクアドル国立シネマテークが復元した映画の断片映像などを含むビデオ *AQUÍ LA MEMORIA ESTÁ VIVA*、デジタル修復を施した4本の作品 *ECUADOR NOTICIERO OCAÑA FILM*(1929年)、*FONDO MIGUEL ALVAREZ*(1922-1935年)、*UN POQUITO DE GUAYAQUIL*(1925-1930年)、*EL TERROR DE LA FRONTERA*(1929年)、そしてシネマテカ・ブラジレイラとブラジルの文化省が復元した *DEJA QUE HABLO*(1970年代の“シネマ・ノヴォ”のバイオニアであるレオン・イルスマン監督作品)についてのドキュメンタリー。

また「国立シネマテークの歴史と思い出」

*INICIO Y MEMORIA 25 AÑOS DE CINEMATECA NACIONAL 1982-2007*という書籍を刊行し、レオナルド・カルデナスの指揮により19世紀、20世紀のエクアドルの音楽を再現する“CAMERATA SINFÓNICA TUHUAMARI”の演奏会を開催した。

## [チリ、サンティアゴ]

チリ国立シネマテーク  
(CINETECA NACIONAL DE CHILE)

映画遺産の保存と普及に関するシンポジウムを行い、チリの歴史映像資料 *PASEO A PLAYA ANCHA*(1903年)、『エルテニエンテ鉱山の思い出』(1918年)、*FUNERALES DE LUIS EMILIO RECABARREN*(1924年)、チリ国立シネマテークとフィルモテカ・デ・ラ・ウナム(メキシコ)が共同復元した*TERREMOTO*(1939年)、シネマテークが復元した *COMBATE DE BOXEO DE TANI LAOYZA*(1925年)を伴奏つきで紹介。また同シネマテークが近年復元した2本の作品 *LA MANO DEL MUERTITO*(1948年、ホセ・ボール監督)、*LARGO VIAGE*(1967年、パトリシオ・カウレン監督)も上映。

## [ブラジル、サンパウロ]

シネマテカ・ブラジレイラ  
(CINEMATECA BRASILEIRA)

FIAFの提案に従い、アフリカ映画特集を実施。上映作品は、*BLACK GODDESS*(1978年、オラ・パロギン監督)、『ジャガー』(1967年、ジャン・ルーシュ監督)、*A PANTHER IN AFRICA*(2004年、アーロン・マシューズ監督)など。

## [シンガポール、シンガポール]

アジアフィルム・アーカイブ  
(ASIAN FILM ARCHIVE)

世界視聴覚遺産の日にちなんで、現在まだよく知られていないローカル・フィルムの調査を広く呼びかけるよう働きかけた。

## [マケドニア、スコピエ]

マケドニア・シネマテーク  
(KINOTEKA NA MAKEDONIJA)

翌(2009)年に控えたフィルム保存庫の建替えプロジェクトを、ビデオで一般に紹介した。特別上映会も実施。

## [スウェーデン、ストックホルム]

シネマテケート(スウェーデン・シネマ・インスティテュート)  
(CINEMATEKET-SVENSKA FILMINSTITUTET)

10月27日には、FIAFパリ会議での呼びかけに応え、マリ共和国のスレイマン・シセ監督作品『ひかり』(1987年)を本人の解説つきで上映し、また同監督がアドバイザーとして所属するワールド・シネマ・ファウンデーションの支援により保護されたセネガル映画『トゥキ・ブウキ/ハイエナの旅』(ジブール・ジヨップ・マンベティ監督)も上映した。

また今回はシネマテケートの創立75周年にあたるため、これを記念して、10月26日から11月2日まで特別上映、講演、セミナーを開催した。ここでは、ユネスコ世界文化遺産に登録された『忘れら

れた人々』(1950年、ルイス・ブニュエル監督)、  
『オズの魔法使い』(1939年、ヴィクター・フレミング  
監督)そして第一次世界大戦ドキュメンタリー『ソ  
ムの戦い』(1916年)を上映。そして新旧のキュレ  
ーターたちが、所蔵品の中であまり上映されなかつた  
作品を紹介し、各キュレーターにとって思い出深い  
復元作業についてトークを行った。デジタル時代  
における保存、そしてデジタル時代におけるアクセス  
という2つのパネル・ディスカッション(海外のFIAF  
会員機関からのゲストも登壇)を実施した。

#### 【エストニア、タリン】

エストニア・フィルム・アーカイブ  
(ESTONIAN FILM ARCHIVES)

デジタル復元を施した *THE IDEAL LANDSCAPE*  
(1980年、Peeter Simm監督)を10月22日にタリン  
の映画館で上映した。1950年代(スターリン時代)  
の田舎生活についてのこの作品は、同作品が作ら  
れた過程を映画監督や俳優たちの思い出とともに  
振り返る新作ドキュメンタリーとともに上映した。

また10月27日には、映画製作者たちを招き、積  
極的な著作権の譲渡についての議論が行われた。

#### 【カナダ、トロント】

フィルム・レファレンス・ライブラリー／オンタ  
リオ・シネマテーク  
(FILM REFERENCE LIBRARY / CINEMATHEQUE ONTARIO)

*A CUBAN FIGHT AGAINST DEMONS*(1972  
年、トマス・グティエレス・アレア監督)を上映。この  
作品は、キューバのフィルム保存庫で激しい劣化  
を起こしていたが、キューバ映画芸術・産業研究  
所の呼びかけで復元されたものである。

### 2009年

#### 【コロンビア、ボゴタ】

コロンビア映画遺産財団  
(FUNDACIÓN PATRIMONIO FÍLMICO COLOMBIANO)

コロンビア映画遺産財団が最近保護した作品のう  
ちの2本 *RAPSODIA EN BOGOTA*(1963年、ホ  
セ・マリア・アルスアガ監督、24分、カラー)、1948-  
49年に製作されたコロンビアに関連する作品(無  
題)を紹介。

#### 【アルゼンチン、ブエノスアイレス】

フンダシオン・シネマテカ・アルヘンティーナ  
(FUNDACIÓN CINEMATECA ARGENTINA)

世界視聴覚遺産の日とフンダシオン・シネマテカ・  
アルヘンティーナ創立60周年をあわせて祝う。

3本の復元作品をパブロ・フラゲラ(ピアノ)とウ  
ィリー・ゴンザレス(エレクトリック・ベースギター)の  
伴奏とともに上映。上映作品には、最近復元された  
*LA REVOLUCIÓN DE MAYO*(1909年、マリオ・  
ガジョ監督)を含む。この作品は、アルゼンチンで  
最古の映画とされており、1810年の独立百周年に  
ちなんで製作されたものである。

またフランス国立フィルム・アーカイブにより復元  
され寄贈されたパテ・フレール製作のニュース映  
画(1924年の作品)、ドイチェ・キネマテーク=ドイ

ツ映画博物館により発掘・復元され寄贈されたドイ  
ツ映画 *IN NACHT UND EIS*(1912年、Mime  
Misu監督)も上映。

#### 【カナダ、モントリオール】

シネマテーク・ケベコワーズ  
(CINEMATHEQUE QUÉBÉCOISE)

映画史特集の一環で、『ゲームの規則』(1939年、  
ジャン・ルノワール監督)を、モントリオール大学の  
マリー=クリスティーヌ・ブローによる解説つきで上  
映。

#### 【カンボジア、プノンペン】

ボファナ視聴覚センター  
(BOPHANA AUDIOVISUAL RESOURCE CENTER)

カンボジアの音声・音楽遺産に焦点を当て、ジャ  
ン=ミシェル・フィリップによるカンボジアの少数民族  
S'aochの言語についての講演、そしてチャムとトン  
ブーン出身のミュージシャンたちによる伝統音楽の  
ライブ・コンサートとともに楽器や演奏の仕方につ  
いての講演を開催した。さらにセンター所蔵のフィ  
ルムを上映し、カンボジアの現代音楽を紹介した。

#### 【チリ、サンティアゴ】

チリ大学シネマテーク  
(CINETECA DE LA UNIVERSIDAD DE CHILE)

10月26日から30日にかけて、さまざまなイベント  
を開催。10月26日には、チリ大学プロデュースのミゲ  
ル・リッティン監督作品『ナウェルトロのジャッカル』  
の製作40周年を記念して、同大学によって復元・  
保存されたプリントを上映。また10月27日には、セ  
ルヒオ・オルテガが作曲した音楽の録音(1964年  
演奏)復元版を使用して無声映画『死の軽騎兵』  
(1925年)の上映などが行われた。

#### チリ国立シネマテーク

(CINETECA NACIONAL DE CHILE)

ミゲル・リッティン監督の『戒厳令下チリ潜入記』  
(1986年)を10月27日に上映。また、アーカイブの  
代表的な所蔵作品 *LAS SOLDADAS*(ラウル・ル  
イス監督)、*LA ESCALA*(アルド・フランシア監  
督)などが11月1日まで上映された。

#### 【マケドニア、スコピエ】

マケドニア・シネマテーク  
(KINOTEKA NA MAKEDONIJA)

マケドニアの教育発展庁の協力により、フィルム素  
材や国家的遺産、映画文化の多様性と豊かさにつ  
いて、いくつかの高等学校で講演(2つのセッション  
を含む)を実施。この講演では、マナキ兄弟の作  
品(1905年以降)、復元されたドキュメンタリー作  
品 *MACEDONIA IN PICTURES*(1923年)も紹  
介した。講演の後、生徒たちは新たにオープンした  
ばかりの空調管理がなされた保存庫を見学した。■

(訳・構成 赤崎陽子/フィルムセンター研究員)



東京国立近代美術館フィルムセンターは、国際フィ  
ルム・アーカイブ連盟(FIAF)の正会員です。  
FIAFは文化遺産として、また、歴史資料としての映  
画フィルムを、破壊・散逸から救済し保存しようとす  
る世界の諸機関を結びつけている国際団体です。

National Film Center (NFC) of The National Mu  
seum of Modern Art, Tokyo is a full member of the  
International Federation of Film Archives (FIAF).  
The Federation brings together institutions dedi  
cated to the rescue and preservation of films, both  
as elements of cultural heritage and as historical  
documents.

東京国立近代美術館ホームページ  
<http://www.momat.go.jp/>



フィルムセンター携帯電話用  
ホームページ  
<http://www.momat.go.jp/nfc/k/>

お問い合わせハローダイヤル  
☎03-5777-8600



「NFCニューズレター」第94号  
(2010年12月-2011年1月号/隔月刊)

発行・著作:  
独立行政法人 国立美術館/東京国立近代美術館©  
編集:

東京国立近代美術館フィルムセンター  
〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6  
☎03(3561)0823

制作:  
印象社  
発行日:  
2010年12月1日

\* 無断転載を禁じます。

NFC NEWSLETTER  
Bimonthly  
(Volume XVI No.5 December 2010-January  
2011)

Published and Copyrighted by  
The National Museum of Modern Art, Tokyo ©  
(Independent Administrative Institution National  
Museum of Art)

Edited by  
National Film Center  
(The National Museum of Modern Art, Tokyo)  
Add.: 3-7-6 Kyobashi, Chuo-ku, Tokyo 104-0031, Japan  
Tel.: 03(3561)0823

Designed and Produced by  
Insho-sha  
Date of Publication:  
December 1, 2010

\*No part of this publication may be reproduced or  
reprinted without the approval of the publisher.